式 辞

新入生の皆さん、そして大学院へ進学された皆さん、ご入学、ご進学おめでとうございます。大谷範子名誉学長さま、芝原玄記理事長・学園長様、ならびにご列席のご来賓の皆さま、そしてご家族もお招きして、4 年ぶりにこのように対面で、2024 年度入学式を執り行うことが出来ますことを、教職員一同心から喜ばしく思っています。

ご家族の皆様に対しましては、長きにわたり慈しみ、その成長を支えてこられたご努力に心よりの敬意を表させていただきます。改めましてお嬢様の京都女子大学へのご入学を、大学を代表いたしましてお祝い申し上げます。

さて新入生の皆さんは、今、明日から始まる新しい大学生活に期待と、そして少しばかりの不安で胸を膨らませておられることと思います。皆さまを京都女子大学の一員としてお迎えするにあたり、まず本学の前身である京都女子高等専門学校の設立に尽力した 3 人の女性についてお話ししたいと思います。

京都女子高等専門学校は1920 年、今から104 年前の4 月にこの地でスタートしました。京都女子高等専門学校の設置に情熱を燃やし、尽力したのは甲斐和里子、大谷籌子、九條武子の 3 人の女性でした。

当時の浄土真宗西本願寺門主のお裏方であった大谷籌子氏は、常日頃「仏陀は・・・（女性を）男女平等機会均等に扱はれたことは否定し得ない事実である。男性は婦人を或いは人形視し或いは奴隷視してすべての自由を束縛して来たがこれは時代を解しない人達の誤った考へからである。然しかやうな誤った婦人観の生れるのも一面婦人自身に欠点のあることは引込主義で男性の横暴を甘受してゐることにも起因する」と折に触れて語っておられたと記録されています。

大谷籌子氏は、仏教の平等思想に根差した「男女平等機会均等」の実現を阻む原因の一つに女性自身に問題があるとの考えから、「男女平等機会均等」な社会の実現には女性の高等教育が重要、と考え「女子大学設立」を発願されました。

明治民法が施行された直後の明治末、日本では女性は参政権はもとより法的に無能力の状態に置かれていた時代にあって、まだ 20 歳代半ばの若さで、「男女平等」を語り、そして日本各地を行脚して全国に仏教婦人会を組織するなど、その考え方の先進性と行動力には感銘を禁じえません。

皆さんが学ばれる大学が、男女平等を願う女性たちの情熱から設立された学校であることを誇りとして、彼女たちの願いを実現する人間となることを心に刻み、4 年間の勉学に励んでいただきたいと思います。

2020 年、本学はこの京都女子高等専門学校設立から 100 年を期して、第 2 次グランドビジョンを策定しました。その中で「ジェンダー平等の実現に貢献できる女性の育成」を教育理念に掲げました。

その背景には、大谷籌子ら 3 人の女性が男女平等機会均等な社会の実現を目指してからすでに 100 年余り経過しているにもかかわらず、日本は男女平等な社会の実現からほど遠いという現状があります。

ご承知のように、男女の格差の開きを示すジェンダー・ギャップ指数が、日本は世界 143 ヶ国中 125 位です。これは先進諸国はいうまでもなくアジア・太平洋州の中でも最下位です。

皆さんは、これまでの学校生活で、日本がとりわけ男性と女性の格差が大きい社会と実感されることは少なかったのではないでしょうか。しかし、男女の格差の大きさが世界でも最下位のレベルの 125 位である、というのは事実であり、日本社会の現実です。

このようにジェンダーギャップ指数の順位を大きく下げている理由は、経済領域と政治領域における格差の大きさです。

経済領域では、日本の経済を支えている就業者の 4 割以上が女性です。しかしその半分近く（47.4％）が非正規雇用です（男性 18.1％）。その結果、男性と女性の給与総額の差が 80 兆円にも達しています。

さらに政治領域はより深刻です。国会議員の女性議員率は世界 193 ヶ国中 166 位、アジアの中で日本より下位なのはスリランカ 1 か国のみです。非イスラム国の中では最下位と言っても良い状況です。

国連は、1981 年に女性差別撤廃条約を発効し、1985 年「ナイロビ将来戦略勧告」、さらに 1990 年の「ナイロビ将来戦略勧告の見直し」において、加盟国に 1995 年までにすべての意思決定領域の女性比率を 30％にすることを求めました。これを受けて世界の国々は男女の格差是正に取り組んできました。その有効な方策が積極的格差是正アファーマティブアクションです。政治領域では、候補者或いは議席の一定数を女性に割り当てるジェンダー・クオータを導入することで女性議員比率を高めてきました。現在、世界 130 か国以上が何らかのジェンダー・クオータを導入しています。昨年は、インドで下院の議席の 3 分の 1 を女性に割り

当てるという画期的な法案が成立しました。

この背景に制度上の平等、あるいは機会の平等だけでは格差の是正が実現しないという歴史的事実があります。男女共学校でも、リーダーは男子生徒、女子生徒はサポート的役割という暗黙の雰囲気がある、あるいは皆さん自身も、「こんな発言は可愛くないと思われないか」と自らの行動をセーブする経験に思い当たる方もおられるのではないでしょうか。
「男らしさ」「女らしさ」を求めるジェンダー規範が、日本の社会のあらゆる構造に根深く浸透しています。子育ては女性の役割、だから正規雇用や管理職は無理、というのもジェンダー規範です。この意識から自由になるためには積極的な格差是正の教育が重要です。

以上の意味から、私は女子大学の教育は一種のアファーマティブアクションである、と位置づけています。
男性の視線から自由な環境の中で、のびのびと自分らしさを発揮し、相互に研鑽して能力を高め合う。この女子大学という環境が、無意識の内に皆さんを縛っているジェンダー規範から解き放ってくれるのです。
多くの企業さまから、主体的に行動する卒業生、マネジメント力に優れた卒業生、と高い評価を頂いているのは、まさに京都女子大学教育の成果です。
新入生の皆さんも、これから京都女子大学で学生生活を過ごされるにあたって、本学の教育上の特徴をしっかりと心に留めて励んでいただきたいと思います。
第 1 に、自分を縛ることなく、のびやかに、自分らしく行動してください。その心地よさの経験は、きっと卒業後も忘れることなくあなたの人格となることでしょう。
第２に、京都女子大学は皆さんの成長を促す様々な機会を用意しています。1 年生から 4 年生までの少人数の演習クラスでは、発言し討論し、プレゼンテーションする機会があるでしょう。連携活動課目では、企業からの寄付講義や地域に出て市民の皆さんと共に活動する機会が設けられています。「らしつよチャレンジ」では学生の皆さんが主体となってプロジェクトに取り組むことが来ます。その他国際交流センターの学生による留学生支援団体 KWISS やジェンダー教育研究所の学生運営委員、さらにクラブやサークル活動など、様々な機会を通して皆さんの行動力、マネジメント力を鍛えることができます。最後に本学の教育そのものです。大谷籌子氏が女性のための高等教育機関を切望したのも、知識は生きるための力であり、理論は生きるために戦う武器となることを理解しておられたからでしょう。

今から 16 年後の 2040 年、皆さんが 30 歳代半ばになられたときには労働力人口が約 1,000 万人減少すると推計されています。労働力の減少は、他の条件を同じとするなら国内総生産、すなわち日本の国が生み出す価値である GOP の低下をもたらします。端的に言えば日本が貧しくなるということです。しかし男女の給与格差が縮まれば GDP の減少を補ってあまりまります。日本の未来は、まさに皆さんの手に委ねられているのです。

100 年以上前、頑強な男性社会の中にあって男女平等を目指し行動した大谷籌子たちの勇気を私たちは受け継いでいます。
この 3 人の女性たちの精神「京女 Spirits」、仏教の平等思想に根差した彼女たちの信念、現実にチャレンジする精神を皆さんに継承していただきたいと心より願っています。そしてそのための実力を、京都女子大学の学生生活で修得してください。

皆さんが日本社会のジェンダー平等実現の担い手となられることに期待して式辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

2024 年 4 月 3 日
京都女子大学　学長
竹安　栄子